

市民が集まり、憩い、楽しめる緑豊かな場所にいたしましょう



森の中の高知駅



高知を愛する皆様へ（令和2年3月号）

「お知らせ」令和2年3月1日

「春に3日の晴れなし」といわれますね。移動性高気圧と低気圧・前線が交互にやってくるからだとか。今月はテルテル坊主を吊るして活動日に臨みましょう。ご有志の応援歓迎です。

3月15日（日）

09:00～10:30 南口電停脇「みんなの庭」の手入れをします。

14:00～15:00 中央公園前の帯屋町筋でいつものギターライブとチラシ配りを行います。

<4月の共同活動日は12日（日）、5月は10日（日）の予定です>

2月のトピックス

○街頭活動：16日（日）午前の作業は生憎の雨で中止。午後、帯屋町でライブとチラシ配りを行いました。市内の生徒たちによる、小児がんに苦しむ子供たちへの支援を呼びかけるボランティア活動に出会いましたので、私どもおじさん組も声と音楽で応援いたしました。

○駅前の植樹：高知市みどり課と話し合い中です。北口ロータリーに囲まれた緑地で枯死しているハナモクレンの植え替えについて具体的な段取りを早急に詰めてまいります。

○下の写真：左端は、まるで春を迎えたかのような南口「みんなの庭」の近況です。奥の黄色は菜の花（写真中央）、中ほど赤紫はホトケノザ（写真右）、手前の白はノースポールです。



.....今回のコラムは「広場」がテーマです。次ページをご覧ください.....

駅前緑化活動はご賛同の方々のご厚志で維持されております。引き続き皆様のお力添え（花苗持ち寄り、勤労奉仕、ご寄付など）をお願い申し上げます。

♥森の中の高知駅♥ 幹事連絡先：〒780-0042 高知市洞ヶ島町1-11

中 田 昌 志 携帯電話：090-8849-3651 E-mail：m.nakata@ak.wakwak.com

公 文 敏 雄 携帯電話：090-7016-3743 E-mail：kumont2@yahoo.co.jp

ホームページ：<http://mori-kochi-ekijimdo.com/>

取引銀行：四国銀行よさこい咲都支店「森の中の高知駅 代表中田昌志」名義 普通 0709695

「緑のまちづくり」を考える（37） — 広場の時代がやってきた



みんなの憩いの場＝武蔵野市図書館前ひろば



カーニバルで賑わう夜の高知図書館西敷地
(令和元年11月3日、高知新聞より)

図書館わきになぜ広場なの？

2018年7月の開館後1年間で新図書館オーテピア（科学館を含む）の来館者数が100万人を突破しました（旧施設のころの約1.5倍、2019年7月2日付高知新聞）。生徒たちが通うほか、子供連れや大人特に高齢者にとっても、図書館は格好の居場所となっているようです。

そんな図書館のそばに誰でもが利用できる広場があれば、疲れた目や頭を草地やベンチで休めることができます。さまざまなイベントにもうってつけでしょう。避難場所や災害用資材備蓄場にもなります。緑と水は火を遮るだけでなく、天然クーラーとなって夏の気温を下げてくれます。近くの道路や施設が広場とつながれば、歩いて楽しい回遊路（右図ご参照）となり、周辺を取り込んだ再整備は人と夢を呼びます。広場が活躍する時代がやってきました。



空き家・空地は大変動の予告信号…発想の転換を

少子高齢化で人口が減り始めた日本。35年後の2055年には総人口が1億人を割り（2割超減、昭和40年ごろの数）、やがて戦前に戻る（7千万人割れ）という、昨年夏発表の政府推計があります。過疎化が地方の都市にも及んでいるいま、マサカ？とは言いきれないでしょう。

高知でも、空き家や空地・跡地（オープンスペース）が次々と現れています。よい対策はないでしょうか？ 隙間があれば建物・施設で埋めるという、上げ潮＝高度成長期の常識はもう通用しそうにありません。識者の間ではコミュニティ（人のつながり）を守る・取り戻すためのさまざまなアイデアが出始めています。たとえば、塀や垣根を取り除いて懐かしい草地・原っぱに返す（上の写真）、樹木とベンチだけあればいい、傘かテントがほしい、屋台もいい、家庭菜園はどうか、雨水管理に使おう、空地のネットワークを作ろう、役所だけでは無理なら民間と一緒に（小は住民やボランティアとの取り組み、大はPFI制度の利用＝名古屋の久屋大通公園再生例）などなど。発想の思い切った転換が求められています。

（参考図書：『アナザーユートピア - オープンスペースから都市を考える』 槇文彦・真壁智治編著、2019年3月NTT出版）